

## 姉妹都市提携までの経過

### 提携の発端

アンカレジ市長は、アラスカ航空の日本支店長に対して「日米親善を深めるため、日本と姉妹の縁結びをしたいので紹介してほしい。千歳市か函館市か帯広市のいずれかの北海道の都市と姉妹都市を結びたい。」と申入れ、昭和43年（1968年）2月、同支店長が日本に戻り、全国市長会にその旨を伝えました。

全国市長会ではこれを了承し、国内の都市を選定した結果、「アンカレジ市は国際空港都市（当時の人口は約45,000人）であり、北回り国際線の重要拠点となっている。一方の千歳市には、近い将来、日本の国際空港として、新東京国際空港に次ぐ地位を占めようという国際幹線空港があり、人口も6万人である。今後、北回り国際線が千歳－アンカレジと結ばれる希望もある。」ということから、3月13日、全国市長会国際親善都市連携から千歳市に、アンカレジ市との姉妹都市提携に関する電話がありました。

千歳市は3月16日の市議会議員協議会で経過説明し承認されたことから、4月13日、アラスカ航空極東代表を通じて、千歳市の意向をアンカレジ市長に伝えるとともに千歳市の資料を送りました。

### 市議会の議決

アンカレジ市では、昭和43年（1968年）4月22日の議会で千歳市との姉妹都市提携についての決議（全会一致）が行われ、また千歳市でも、5月21日、姉妹都市提携について総務文教常任委員会で承認、さらには6月15日に行われた商工会議所代表、婦人団体、青年会議所、記者クラブ、青年団体などの民間代表との打合せを経て、6月20日、市議会で全会一致の賛成を得て、正式に議決されました。また、この議決結果については、直ちに全国市長会（国際親善都市連盟）とアラスカ航空日本支店長に報告されました。

6月25日、テレビ局、新聞社の取材陣が集まる中、当時の米田忠雄千歳市長は、ジョージ・サリバンアンカレジ市長と国際電話であいさつを交わし、米田市長からはアンカレジ市議会における千歳市との姉妹都市提携の議決に対するお礼、並びに千歳市議会におけるアンカレジ市との姉妹都市提携の議決についての報告も行い、姉妹都市提携記念通話を終えました。この際、米軍熊基地の副司令官も同席し、アンカレジ市長と会話を交わしました。



## 千歳・アンカレジ友好協会の設立

昭和43年（1968年）9月30日、千歳市はアンカレジ市との有意義な提携業務を推進するための団体設置の準備状況と千歳市開基90年の記念行事における姉妹都市提携記念行事の検討などに関する市長メッセージと記念品を真鍋辰夫氏に託し、アンカレジ市長に贈りました。10月2日には、千歳市で千歳・アンカレジ友好協会の設立準備委員会を開催し、11月2日から3日までの間、「第1回アンカレジ友好展」を開くなど、広くアンカレジ市を紹介するための活動を行いました。そして、昭和44年（1969年）7月18日、協会の規約を整え、両市の生活、文化、スポーツ、経済の交流などを進めることを目的に活動する団体として「千歳・アンカレジ友好協会」が正式に設立されました。

## 姉妹都市提携の調印

昭和44年（1969年）1月14日、アンカレジ市長は千歳市の地元新聞を通じて、千歳市民に対する年頭の挨拶を行い、両市の友好ムードを高め、4月21日の姉妹都市提携調印日を迎えました。4月18日、米田忠雄千歳市長をはじめ吉田信一千歳市会議長、小池金吾千歳商工会議所会頭を含むアンカレジ市訪問親善使節団一行7名はアンカレジ市を訪問し、4月21日、ウエストワールドホテル（元ヒルトンホテル）において調印式を行い、両市にとって互いに初めての姉妹都市が誕生しました。日米都市との提携は70番目、道内では札幌市、旭川市に次ぐ3番目の提携が実現し、昭和44年は千歳市にとって、国際都市としての飛躍の年となりました。

